

本時のねらい

自分本位に考えるのではなく、相手の思いを受け入れ、自分と同じように相手を尊重することの大切さについて考えることができる。

この授業から児童は、相手の気持ちを受け止めることで心は穏やかになるということに気づき、思いを受け入れさらに相手のことを尊重しようという心情を育てていくことができる。

導入

「今みんな縄跳び頑張っているよね。去年の先生のクラスでも、ある子が二十回を目標に頑張っていて、あと一回っていう時に転がってきたボールにつまずいて達成させることができなかつたんだ。その子は、ボール遊びしていた子をすごく責めて、なかなか泣き止んでくれなかつたんだ。」

発問①（基本発問）

「ともみさんはあき子さんに三回謝っているけど、あき子さんの怒りはなかなか収まらないね。」

《ごめんね》

《わざとじゃない》

《どうして》



発問②（中心発問）

「ともみは、机の上の貯金箱を見ながらどんなことを考えていたでしょう。」

- ・ あき子さんはわたしのためにプレゼントを選んでくれたんだ
- ・ あき子さんにひどいことしちゃった
- ・ 何であんなに怒ったんだらう
- ・ わたしの方が謝らなきゃ
- ・ 友達やめちゃうなんて嫌だ

謝っているあき子の言葉に対してともみの気持ちは微妙に変化している。そのともみの気持ちを想像させることで、自分事として捉えさせることができた。

あき子
ともみの絵を汚して
しまった

ともみ
何度も謝るあき子
を無視してしまった

大事

発問③（基本発問）

「あんなに怒っていたともみさんの気持ち静かになっていったね。」

いかり

だんだん消えていく

「大きな炎が小さくなり消えていくように変わっていったともみさんの気持ちを考えてみよう」